

たからづかしの家計簿

「令和4年度決算」
について分かりやすく
ご紹介します！

- 01 予算と決算って？ 01
- 02 市の会計の種類って1つじゃないの？ 02
- 03 いくらくらいお金の出入りがあったの？ 03
- 04 入ってきたお金の内訳は？ 04
- 05 どんな内容にどのくらいお金を使ったの？ 05
- 06 どんな目的にどのくらいお金を使ったの？ 06
- 07 具体的にどんなところにお金を使っているの？ 07
- 08 もっと身近な数字にできないの？ 10
- 09 ローン残高の内訳は？ 11
- 10 貯金（基金）はどのくらいあるの？ 12
- 11 一般会計以外の会計の状況は？ 13
- 12 市の状況を測るものさしはないの？ 14
- 13 結局たからづかしの財政はどんなの？ 16

01 予算と決算って？

まず「予算・決算」とは、「予算」が使う見込みを表すものであるのに対し、「決算」とは予算を上限として市民サービスを行った結果の数字となります。

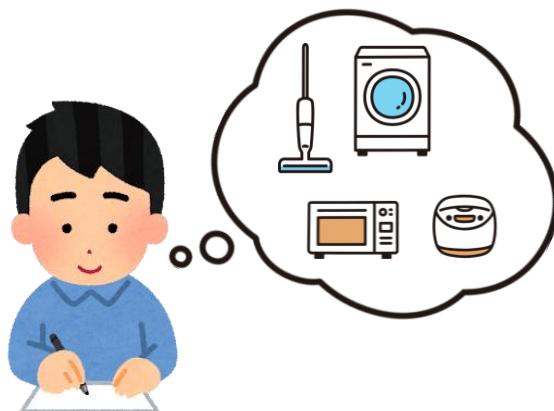
一般家庭で例えると、

予算は、「食費にいくら、次に買う家電にいくら」とあらかじめ計画すること
決算は、実際に使ったお金のこと

をいいます。

「たからづかしの家計簿」では令和4年度決算を基に市の財政を説明していきます。

予算



決算



02 市の会計の種類って1つじゃないの？

市の会計は複数に分かれています。1つだけの方が分かりやすいのかもしれませんが、例えば市民の中でも一部の方だけが加入している国民健康保険に関する収入と支出は、その他の一般的なお金と分ける必要があるため、会計を分けています。

一般家庭で例えると、生活していくためのお金とその他の目的のお金を別に管理していることと似ています。

特別会計

- 国民健康保険事業費
- 国民健康保険診療施設費
- 介護保険事業費
- 後期高齢者医療事業費
- 財産区（9財産区）
- 宝塚市営霊園事業費

一般会計

公営企業会計

- 水道事業会計
- 病院事業会計
- 下水道事業会計

*市によって一般会計と特別会計の分けかたが異なるため、他自治体と比較できるように全国的に統一の基準で作る仮想の会計として「普通会計」があります。宝塚市では概ね一般会計+宝塚市営霊園事業費=普通会計となります。

03 いくらくらいお金の出入りがあったの？

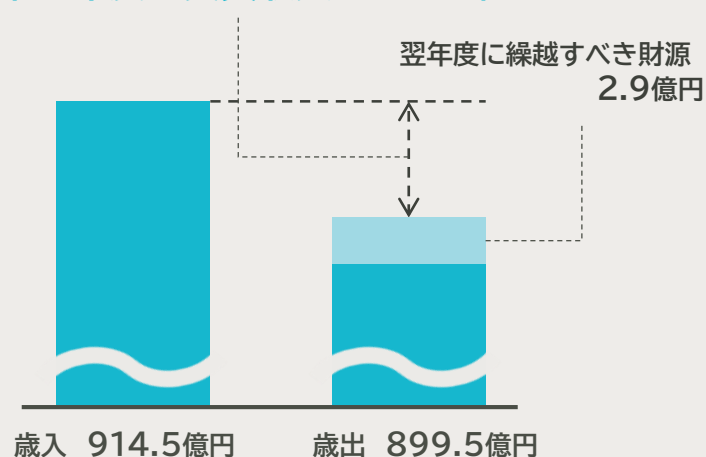
では、次に3つの会計の内、一番代表的な一般会計の決算状況について解説します。一般家庭でも家計簿をつけるとどんな項目にどれだけお金を使ったのかを客観的に見られるように、市の決算を見ることで市が過去一年間で、どんな市民サービスにお金を使ったのか、またどんなお金が入ってきたのかがわかります。

入ってきたお金（歳入） 914.5億円

－ 使ったお金（歳出） 899.5億円 = 15億円

ただし、この15億円の中には来年度使うことを約束しているお金（翌年度に繰越すべき財源）が2.9億円あることから、実際の令和4年度収支（実質収支）は $15\text{億円} - 2.9\text{億円} = 12.1\text{億円}$ となり使ったお金より、入ってきたお金の方が 12.1億円多かったということになります。

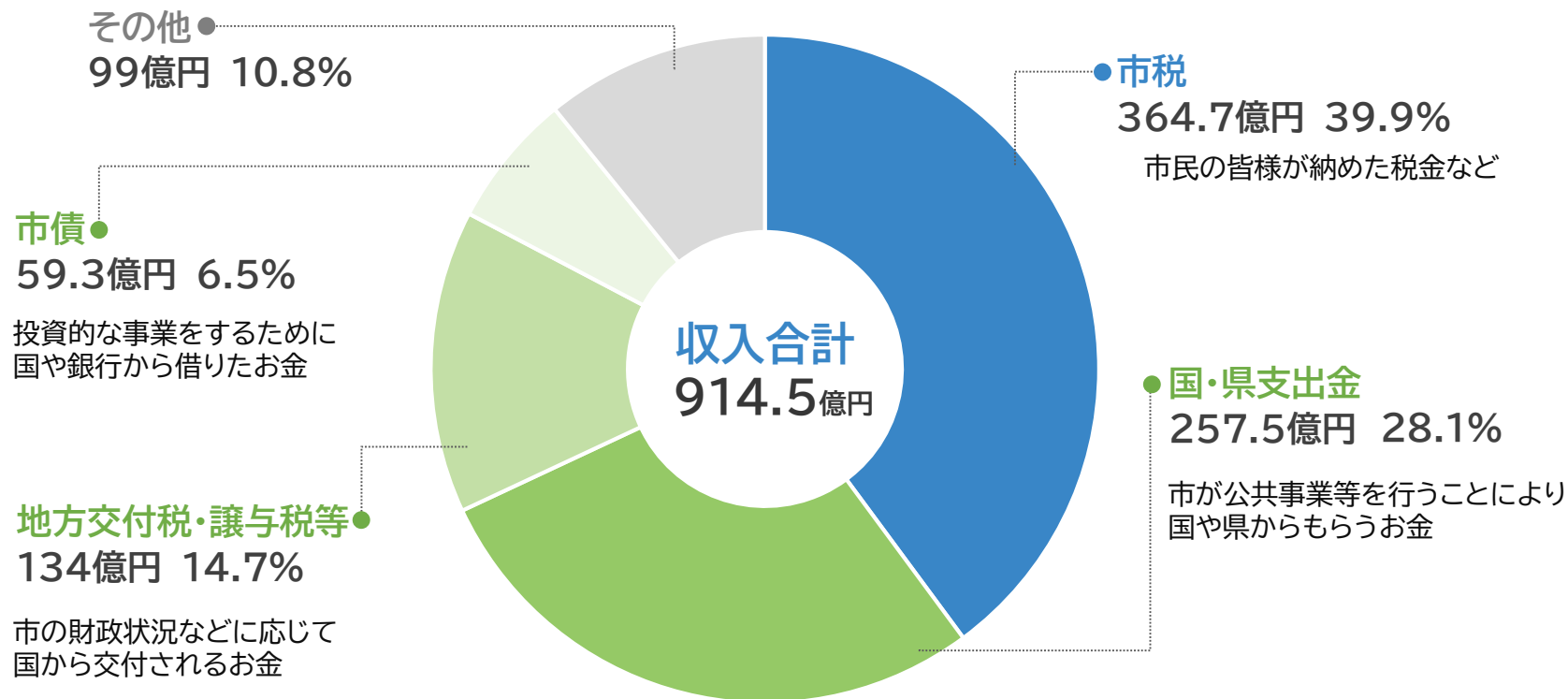
令和4年度の実質収支 12.1億円



Q 「翌年度に繰越すべき財源」とは、どんなお金のことですか？

入ってきたお金（歳入）から使ったお金（歳出）を引いたものを形式収支と言います。この形式収支の中には、その年度中に完了し支払いも終わる予定であったが、何らかの理由で年度末までに工事等が完了せず、支払いが翌年度になるものがあります。そういったお金を翌年度に繰越すべき財源として計上しています。

04 入ってきたお金の内訳は？

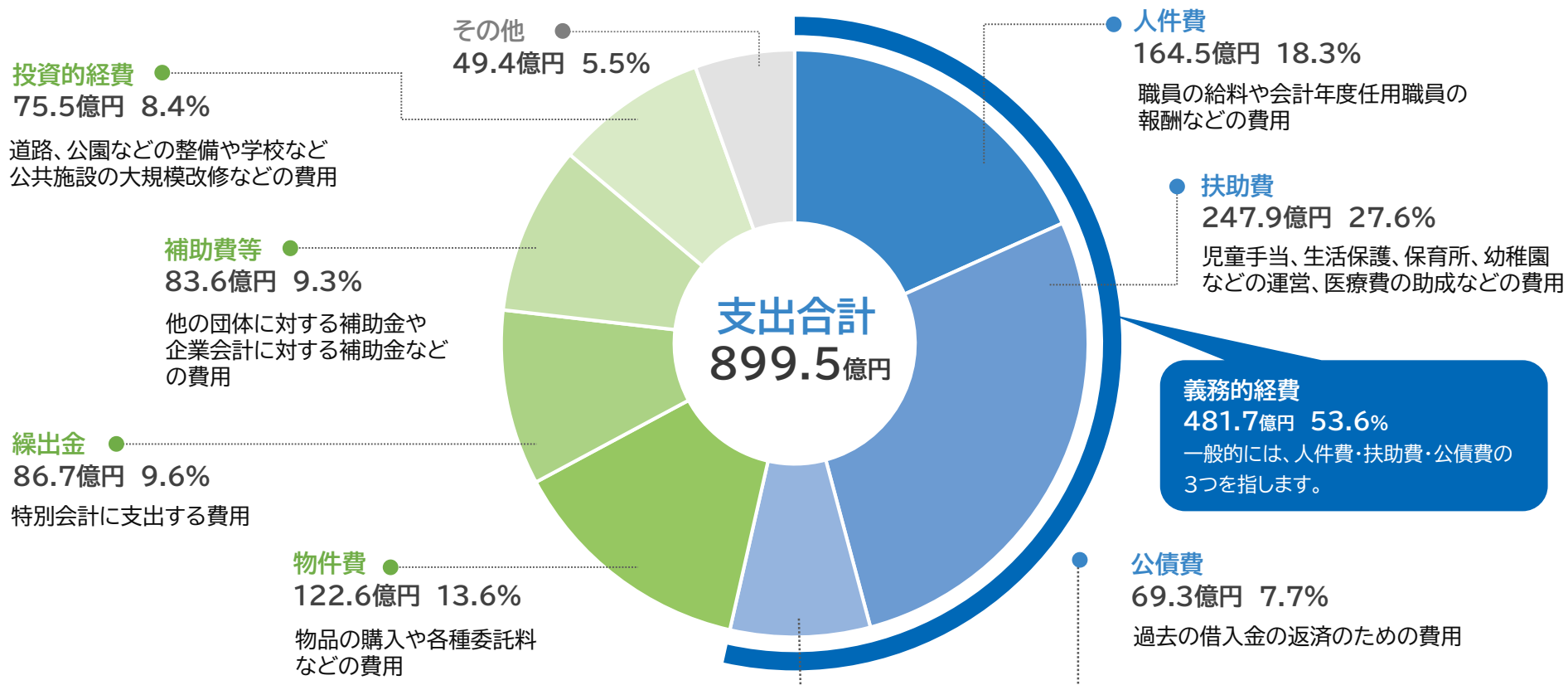


Q 入ってきたお金の内訳として、どんな特徴がありますか？

本市はコロナ禍前の決算では市税の割合が歳入の半分近くとなる特徴がありましたが、ここ数年は国から交付される補助金や地方交付税の割合が多くなっていることから、市税の割合は30%~40%程度となっています。

05

どんな内容にどのくらいお金を使ったの？（性質別）

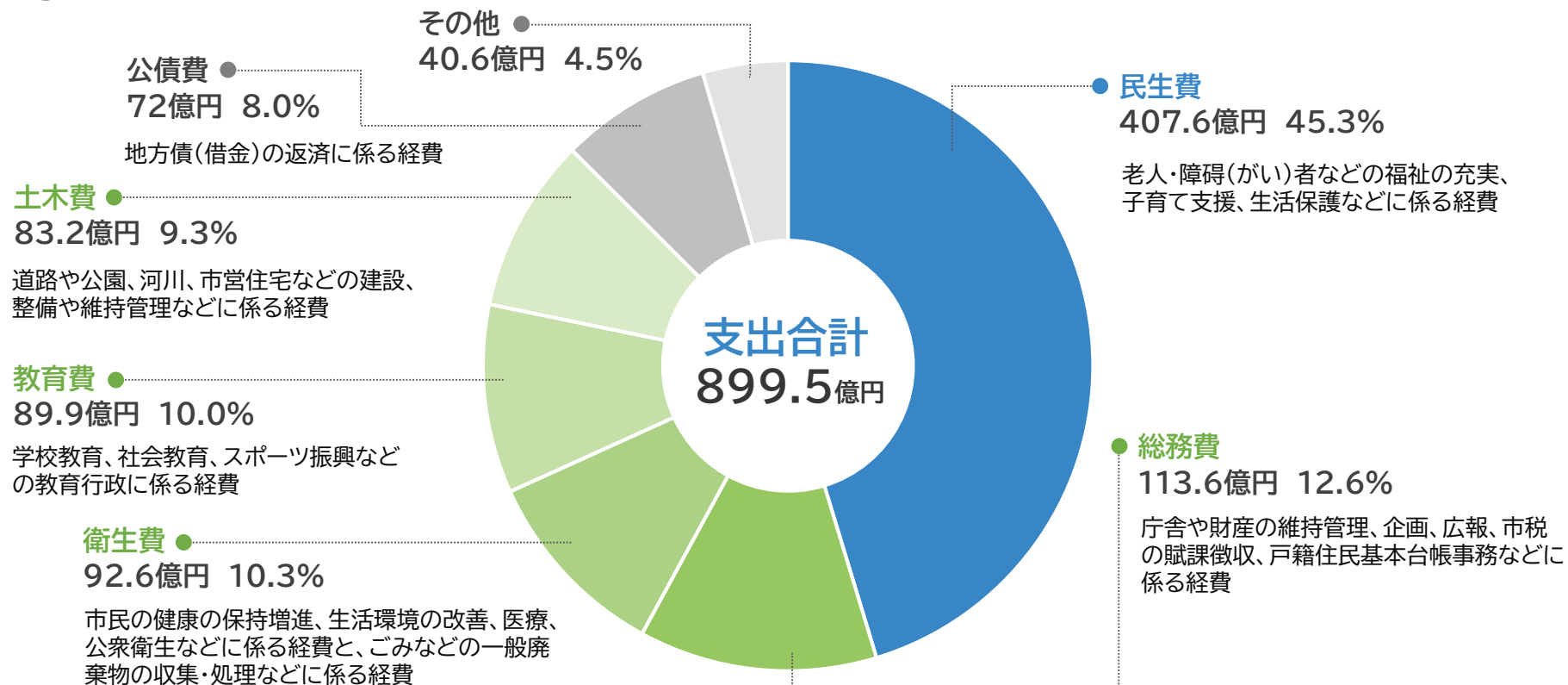


Q 「義務的経費」というものが半分以上を占めているのですね。「義務的経費」が多いとどうなるのですか？

義務的経費とは、簡単には削減できない経費のことであり、予算に占める義務的経費の割合が高いということは、予算の自由度が狭くなり、まちづくりやその他の行政サービスを行うことが難しくなるという影響があります。多くの自治体と同様、宝塚市でも義務的経費は増加傾向にあり、財政を圧迫しており、特に扶助費については、高齢化率の上昇により、今後増加が見込まれています。

06

どんな目的にどのくらいお金を使ったの？（目的別）



Q 前年度と比較すると、どうなの？

令和3年度の支出合計は910.9億円であり、比較すると令和4年度の支出は1.2%の減になりました。特に、民生費においては、新型コロナウイルス感染症にかかる国の経済対策である子育て特別給付金給付事業や住民税非課税世帯等臨時特別給付金給付事業が縮小されたことに伴い17.7億円減少し、衛生費においては、病院事業会計補助金・貸付金の減などにより11.2億円減少しました。

07 具体的にどんなところにお金をつかっているの？

身の回りで、どんなところにお金を使っているのか、いくつかご紹介します。（グラフ内の額は、市民一人あたりの額）

子育てや保育・幼児教育の充実に関すること ————— 154億1,870万円

児童手当
保育所助成金
乳幼児等医療費助成
子育て世帯応援給付 等



67,008円

障害福祉サービス等の充実に関すること ————— 133億2,325万円

自立支援事業
障害者医療費助成
障害児通所給付事業 等



57,901円

小・中・特別支援学校、幼稚園等に関すること ————— 89億9,362万円

小・中学校の運営
特別支援学校の運営
幼稚園の運営 等

39,085円



高齢者へのサービスに関すること

72億6,514万円

高齢者バス・タクシー運賃助成
障害高齢者タクシー運賃助成
住宅改造助成制度 等

31,573円



道路や橋の維持・管理に関すること

29億2,205万円

道路や橋りょうの維持補修工事
街路灯の整備工事
通学路の安全対策工事 等

12,699円



ごみの処理やリサイクルに関すること

27億2,931万円

ごみの収集
緑のリサイクル事業
新ごみ処理施設の整備 等

11,861円

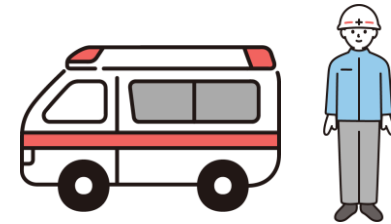


救急、消防に関すること

23億9,794万円

すみれ防災スピーカー(防災行政無線)
防災情報システムの運用
救命講習 等

10,421円



公園の維持・管理に関すること

8億2,042万円

公園の清掃・除草等の委託
街路樹の剪定
公園の維持補修費 等

3,565円



まちの賑わいづくりや商工業の発展に関すること

7億6,105万円

観光施設の維持管理
温泉施設の管理
起業の支援 等

3,307円



08 もっと身近な数字にできないの？

市の決算は言葉が難しかったり、額も大きすぎて、イメージしづらいかと思います。イメージを持っていただくため、ここでは月収42万円(年収約500万円。貯金の取り崩し、ローンの借入などを含む。)の家庭の家計簿に置き換えてみます。

収入		支出	
給与	38 万円	食費 (人件費)	7 万円
うち基本給 (市税・地方譲与税等)	20 万円	医療費・育児費 (扶助費)	11 万円
うち諸手当 (地方交付税・国県支出金等)	18 万円	ローンの返済 (公債費)	3 万円
貯金の取崩など (繰入金等)	0 万円	光熱水費・通信費 (物件費)	6 万円
ローンの借入 (市債)	3 万円	家の修理・家電購入 (投資的経費等)	4 万円
前月からの繰越 (繰越金)	1 万円	家族などへの仕送り (補助費、特別会計への繰出金等)	8 万円
合計	42 万円	合計	39 万円
		ローン残高 (地方債残高)	379 万円
		預貯金残高 (基金残高)	93 万円

家計簿を分析してみよう！

医療費・育児費の割合が大きいです。臨時の諸手当(国県支出金等)が出たので家計負担は抑えられています。

諸手当(地方交付税)が増えたことなどにより黒字(収入と支出の差)が増えた分は、貯金するなどして翌月以降の支出に使われます。

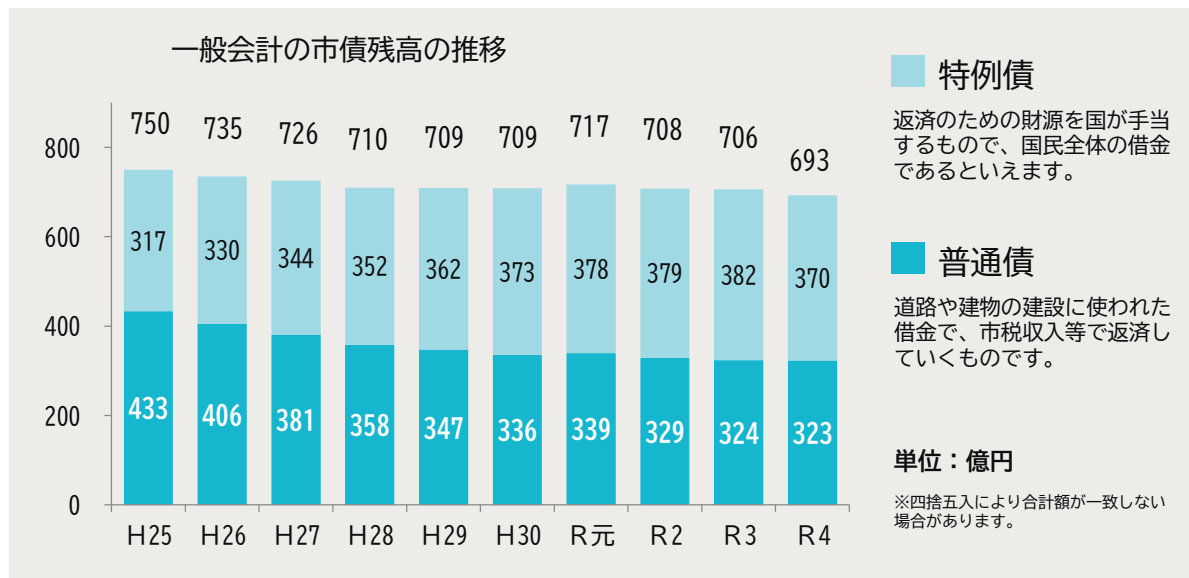
家の修理・家電購入費(投資的経費等)などを我慢してなんとか医療費・育児費・家族などへの仕送りを捻出していますが、家や家電が古くなっており今後は今まで以上に家の修理や家電の買い替えが必要になってきます。買い替え資金や、新たに借りるローンの返済に備えて計画的に貯金(基金)を増やしていく必要があります。

※実際には、家計とは収入・支出などの構成や考え方は大きく違うため、本来は置き換えることはできませんが、仮に置き換えた場合、という視点で作成しています。



09 ローン残高の内訳は？

ローン残高については近年ほぼ横ばいです。内訳としては、特例債が半分程度になっていますが、これはローン返済相当額を国が後年度に交付税として100%渡してくれる制度であり、他のローンとは性質が異なります。



Q どうしてローンを組むの？

市が公共施設や道路等を建設する場合、一時的に多額の資金が必要となります。その年度だけの収入で賄うと、他の行政サービスが市民の皆さんに提供できなくなるかもしれません。また、そういった施設は将来にわたって何世代もの方が利用します。その負担を現役世代だけではなく、将来世代も負担し、市民負担の公平性を保つ観点からローンを組んで事業を行っています。このローンのことを地方債と呼びます。

地方債を使わないと…

市民負担

現在の市民のみが負担
将来の市民は負担しない



現在の市民



将来の市民

地方債を使うと…

将来の市民も平等に費用を負担



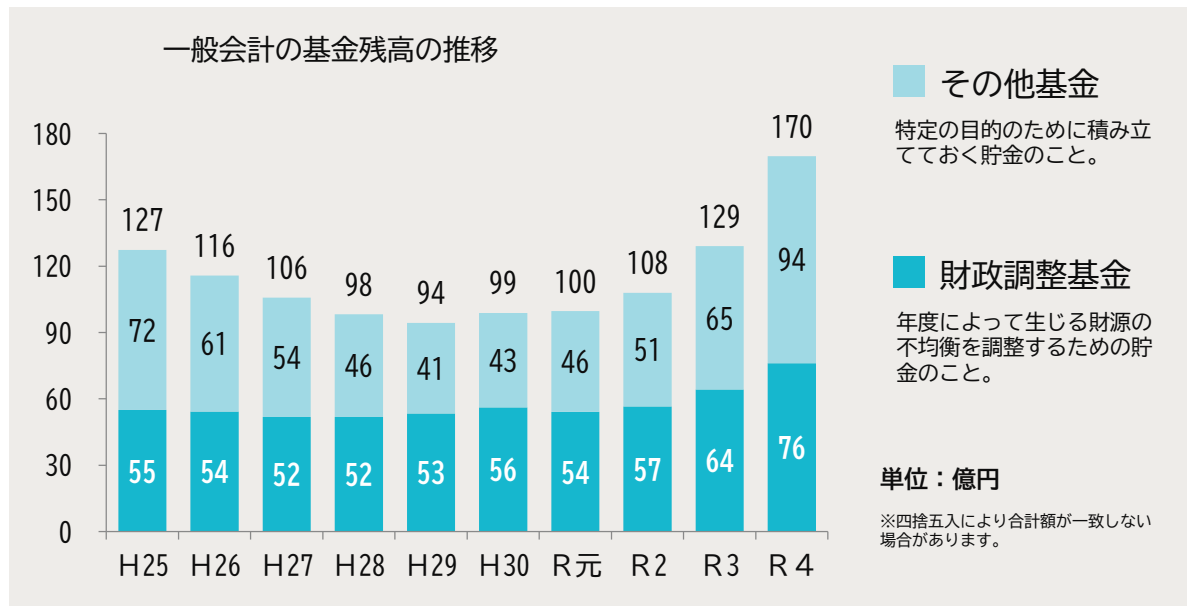
現在の市民



将来の市民

10 貯金（基金）はどのくらいあるの？

一般家庭でいう貯金にあたるものを市では基金と呼びますが、その基金の残高は次のグラフのとおりです。令和4年度は、今後の施設の整備及び保全やローン（地方債）返済のお金に備え、公共施設等整備保全基金（施設の老朽化修繕などの際に取り崩して使う基金）や市債管理基金などへの積み立てを行ったことで基金残高が大きく増加しました。



Q どうして基金が必要なの？

一般家庭でも教育や旅行など、貯蓄目的を分けて積み立てることもあるかと思います。同じように市の基金もお金のやりくりをするための財政調整基金や決まった目的のために積み立てている特定目的基金等があります。また、安定した行政サービスを提供するために、災害時や経済情勢の悪化など不測の事態に備えておく必要もあります。

突然の災害や、経済情勢の悪化



財政調整基金



建物の維持管理や緑化対策など



特定目的基金



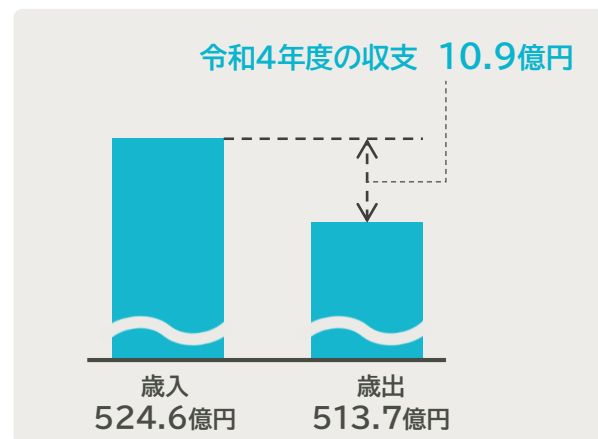
11

一般会計以外の会計の状況は？

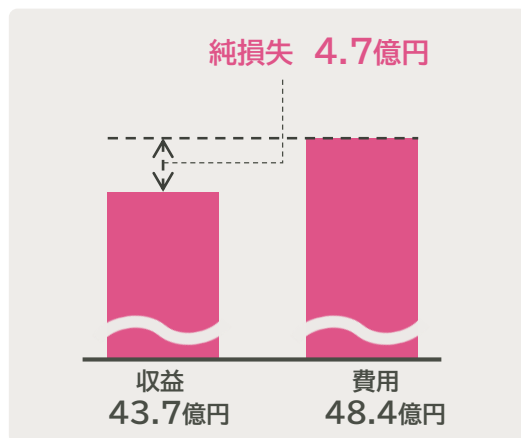
特別会計の状況

実質収支額は、来年度使うことを約束しているお金(翌年度に繰越すべき財源)はなかったことから、10.9億円の収支プラスでした。

主なものとしては、特別会計国民健康保険事業費が5億円、介護保険事業費が4.1億円、後期高齢者医療事業費が1.5億円の収支プラスとなりました。

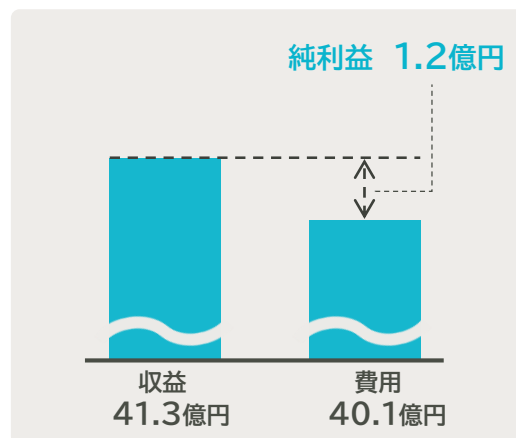


水道事業の状況



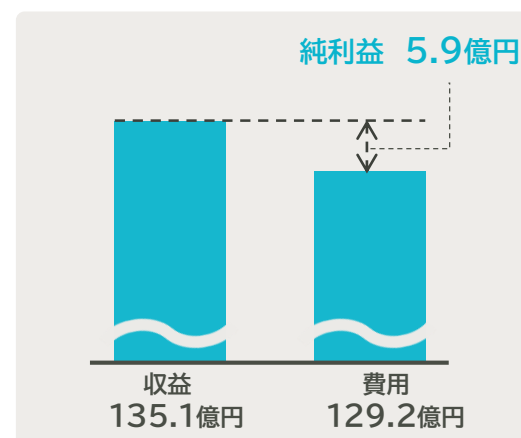
4年連続の赤字で、4.7億円の純損失となりました。

下水道事業の状況



黒字で、1.2億円の純利益となりました。

病院事業の状況



黒字で、5.9億円の純利益となりました。

12 市の状況を測るものさしはないの？

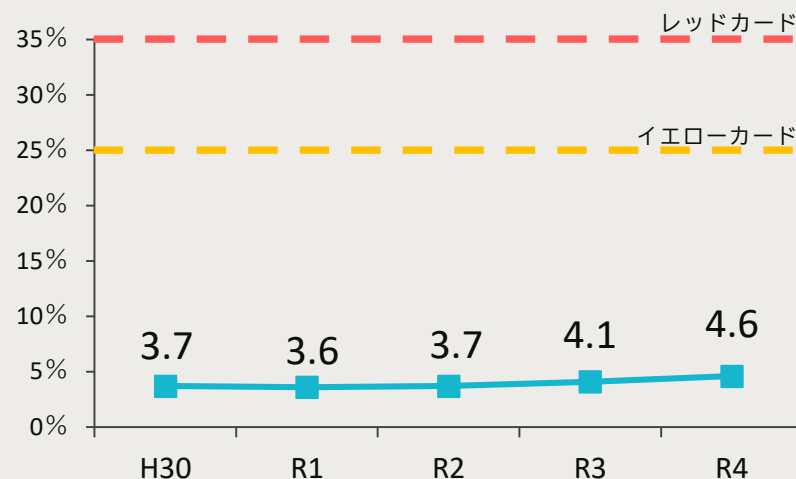
一般家庭でもローンの審査を受ける時に、所得やローン状況等を金融機関にチェックしてもらい融資を受けることになると思います。それと同じように市でも一定の基準を満たしていないと新たな借金ができないなどの国のチェック機能（健全化4指標）や財政的な自由度・余裕度を表す経常収支比率という数字などがあります。

実質公債費比率

年間収入に対し、借金の返済額が占める割合を示すものです。家計に例えると、年収に占めるローン返済額の割合をいいます。令和4年度は、前年度に比べると0.5ポイント悪化し、4.6%となりました。

4.6%

※法令上、25%以上になると早期健全化基準というイエローカード状態。35%以上になると財政再生基準というレッドカード状態。



実質赤字比率/連結実質赤字比率

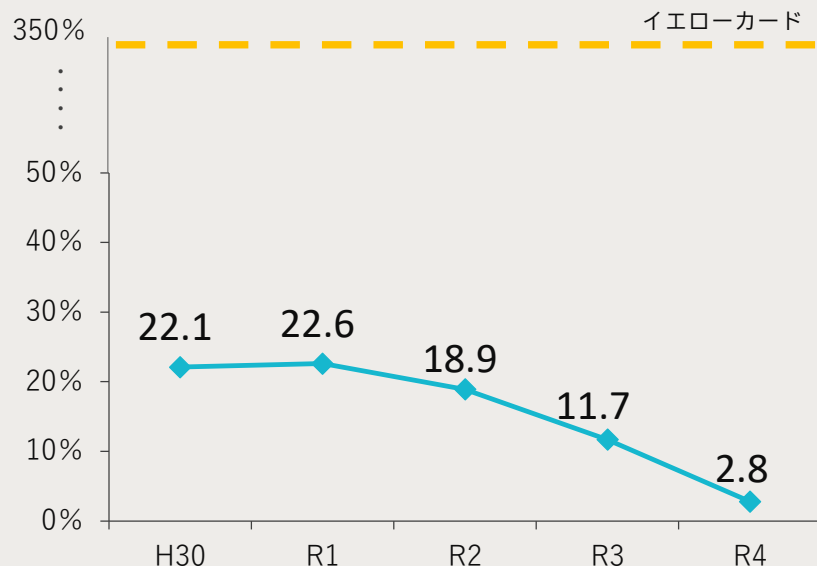
実質赤字比率は一番身近な財布である一般会計等が赤字かどうかを示すものをいいます。

連結実質赤字比率は一般会計・特別会計・公営企業会計の3つの財布全体で赤字かどうかを示すものをいいます。

赤字は発生していません

将来負担比率

今後返済が必要な借金等の総額が、収入の何倍に相当するかを示すものです。家計に例えると、家や車のローン残高に一人暮らしをしている子どもや家族への生活支援費などを加えた合計額が年収と比べてどれくらいあるかの割合をいいます。令和4年度は、昨年度より8.9ポイント改善し2.8%となりました。



2.8 %

※法令上、350%以上になると早期健全化基準というイエローカード状態。

経常収支比率

人件費・扶助費・公債費などの経常的な経費が、地方税・地方交付税・地方譲与税などの経常的な収入に占める割合をいいます。この割合が高いと突発的な支出に対応できる弾力性が低い状態と言えます。令和4年度は昨年度より1.6ポイント改善し93.7%となりました。

93.7 %

13 結局たからづかしの財政はどのようなの？

これまで様々な角度から決算を見てきましたが、「数字はわかったけど、たからづかしの状況はどのようなの？」という視点で決算を見てみます。

今後の市の財政状況については、少子高齢化や人口減少が進んでいくことで市税などの入ってくるお金の大幅な増は見込めない状況です。

出ていくお金については、市の建物や道路などが古くなっており維持・管理費用が大きくなっていくほか、高齢化に伴い医療費などに今よりもお金がかかることを見込まれます。

また、みなさんの生活に必要不可欠なごみ処理施設も古くなっているため、現在建て替えに向けて取り組んでいるほか、市立病院の建物老朽化への対応や土地開発公社で長期間保有している土地の処分などの課題も抱えています。

このような今後の厳しい状況を見据え、健全で持続可能な財政運営を行っていけるよう取り組んでいきます。

令和4年度決算の詳細及び主な事業はこちら →
(市ホームページ「令和4年度決算概要」へリンク)

